

STEREO PREAMPLIFIER

C-270

ステレオ・プリアンプリファイヤー

取扱説明書



Accuphase

このたびはアキュフェーズ製品をお買上げいただきまして誠にありがとうございました。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで数多くの厳しいチェックを受け、その過程及び結果が一台ごとの製品の履歴書として明細に記録され、社内に保管されております。このように完全な品質管理体制の中から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思えます。末長くご愛用下さいますようお願い申し上げます。

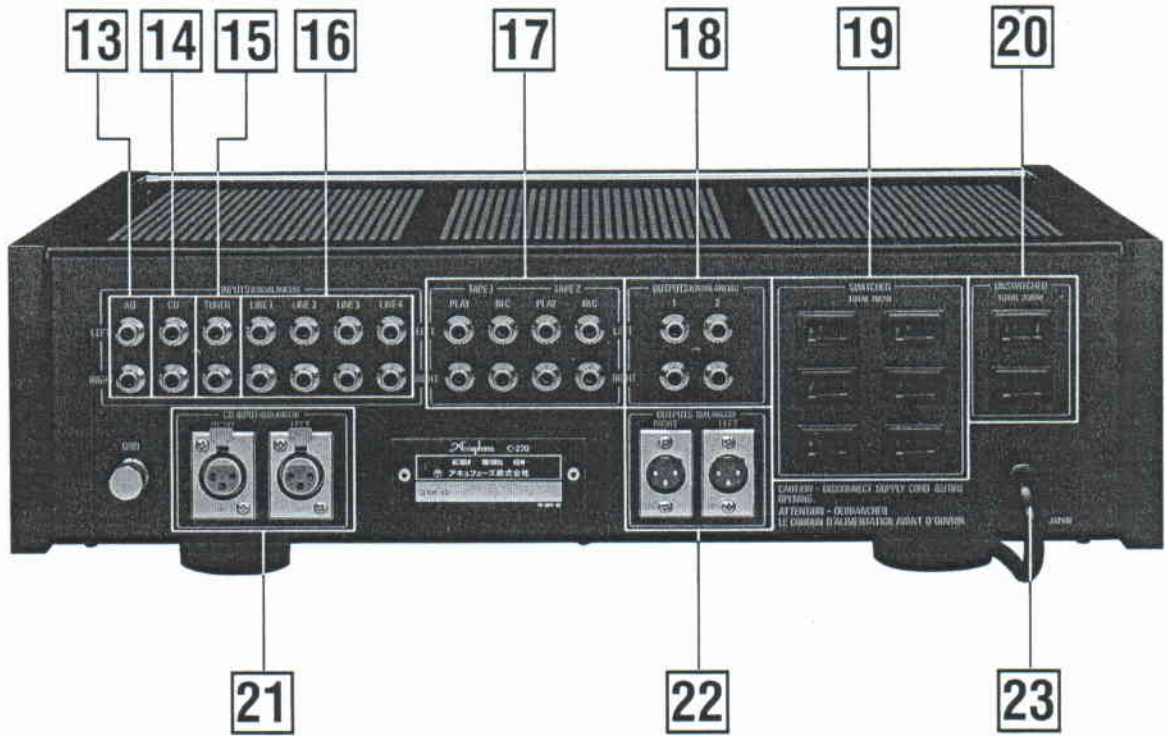
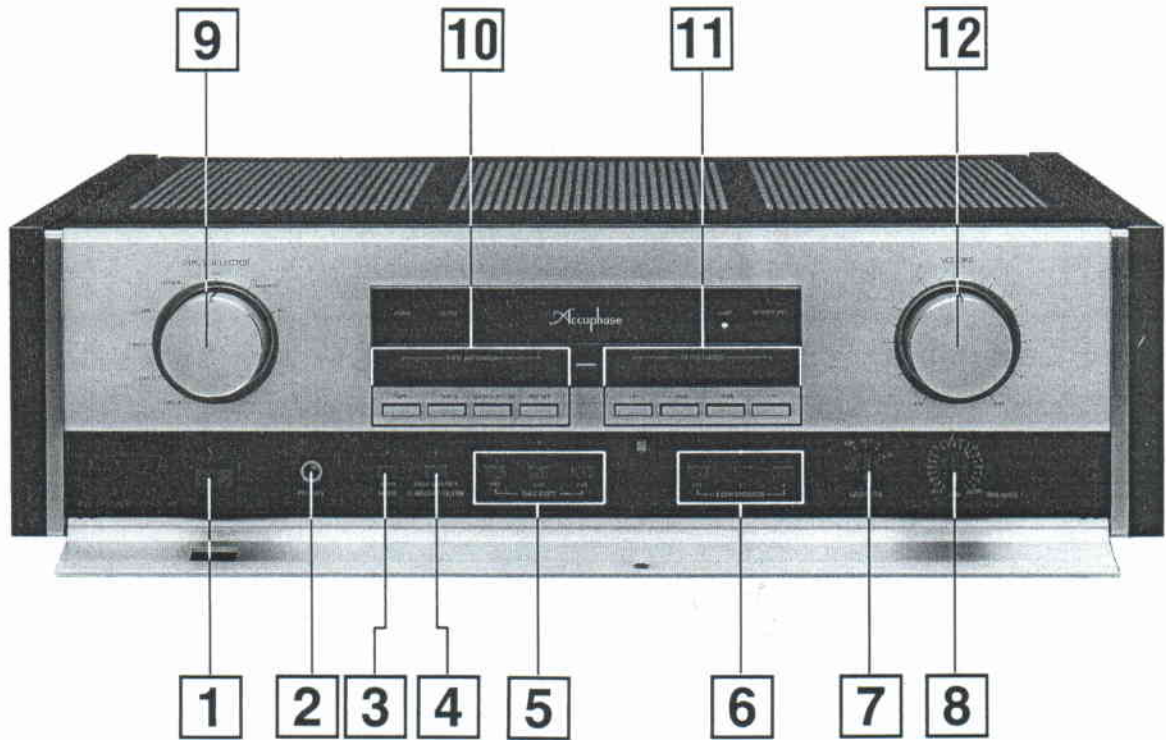
お 願 い

お客様カードを付属していますから、これに必要事項をご記入のうえなるべく早く(お買上げ後10日以内)ご返送ください。お客様カードと引きかえに品質保証書をお届け申し上げます。

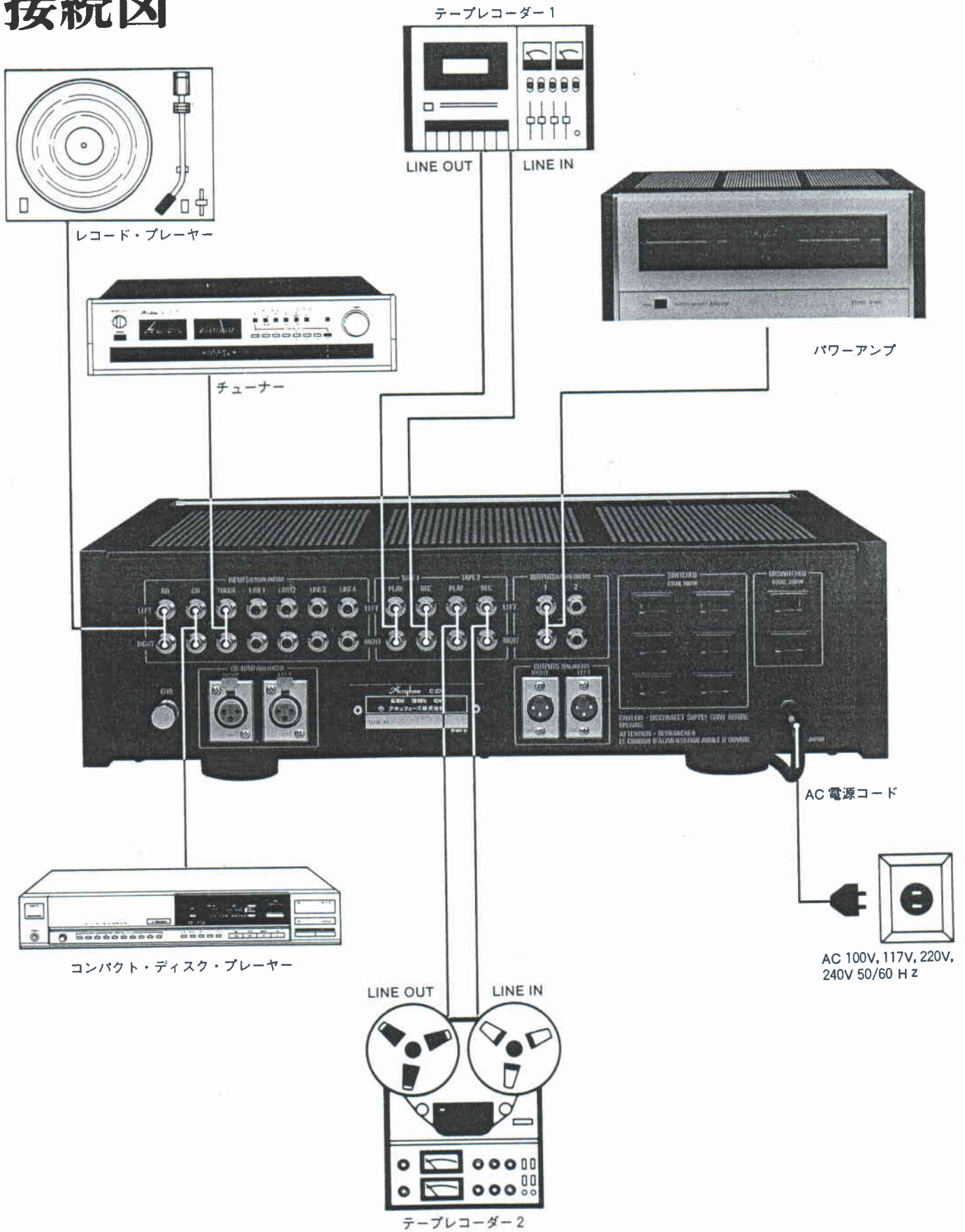
製品に関するお問い合わせ、または異常が認められるときは弊社、品質保証課または、お求めの専門店へ、直ちにご連絡くださいますようお願い申し上げます。

目 次

接続図	2
特長	3
各部の動作説明	4
ご使用方法	8
ご注意	10
ブロック・ダイアグラム	11
保証特性	12
特性グラフ	13



接続図



特長

■全段カスコード A 級プッシュプル構成。高域特性とリニアリティー、そして SN 比を大幅に改善

回路構成はアキュフェーズの伝統的な『全増幅段 A 級プッシュプル』に『カスコード方式』を組み合わせた、まさに増幅回路の理想の構成をなすものです。そして NFB(負帰還)をほどこす前の素特性を極限まで改善しています。

カスコード方式は、増幅素子を 2 個縦列に組み合わせて一つの素子として動作させるもので、入力インピーダンスを高くし、ゲインを大きくすると同時に高域特性を大幅に改善します。また素子の動作限界まで直線性が保たれ、ひずみが減少し、SN 比も改善され増幅器として理想的な特性を実現します。しかも A 級プッシュプルにより、素特性は極限的なものになり、リニアリティー、ひずみ特性が更に改善されています。

■全ユニットアンプに DC サーボ方式を採用。アナログ・ディスク(AD)入力から出力まで純粋にストレートな直結方式

IC による『DC サーボ回路』は、出力に発生した直流を検出して入力に帰還し、出力が正しくゼロ電位を保つように働いて、DC ドリフトの発生を防ぎます。これにより、アナログ・ディスク(AD)入力から出力まで全信号系が直結になり、カラレーションのない、質の高い再生音を期待することができます。

■バランス 1 系統を含む 10 系統の入力と、バランス 1 系統を含む 3 系統の出力

C-270 はアナログ・ディスク 1 系統、チューナー、CD の他にライン入力が 5 系統あります。他にテープ専用として 2 系統の入力が用意されています。更にプリアンプとして初の『CD バランス入力』を設けましたので、CD やその他のバランス出力を持つ機器を接続することが可能です。

出力はアンバランス 2 系統、バランス 1 系統で、多チャンネル・マルチアンプや複数のパワーアンプの駆動に威力を発揮します。

■2 トランス独立巻線。更にユニットアンプの全てを専用定電圧回路で強化した完全な独立電源

本機は左右チャンネル専用の電源トランスを搭載、しかも各ユニットアンプ専用の巻線によって供給されます。更に強力な電源とするために、各ユニットアンプに専用の定電圧電源を持たせる『マルチプル・パワーサプライ方式』を採用しています。定電圧電源回路は各ユニットアンプと共にハウジングの中に収納され至近距離で接続されていますので、広帯域にわたって電源インピーダンスを低く保ち、安定した純度の高い増幅を可能にしています。

■ロジック・リレーコントロールによりストレートで最短の信号経路

入力切り替えやテープモニター等のファンクションのために信号経路を引き回すことは、高域の劣化や不安定要素を誘発します。本機は最短でストレートな信号経路を構成するために、スイッチが必要な信号経路のその場所にリレーを設置して、これらのリレーをロジック回路で電子的にコントロールして切り替えを行なっています。リレーは、オーディオ用として特に開発された密閉型を採用しています。

■アナログ・ディスク独特の雰囲気重視したイコライザーアンプ

イコライザーアンプは取り扱う信号レベルが微弱なため固有雑音の影響を受けますので、入力 FET は特に低雑音素子を選びました。回路構成と同様に音質を決定するのが RIAA 再生特性を作る抵抗とコンデンサーによるネットワーク素子です。

最も重要なコンデンサーは、音質重視のオーディオ用として特に開発された、複合誘電体による無誘導型を採用しています。無誘導であるため可聴帯域外の特性に優れ、エポキシ樹脂を充填し、信号電圧によって発生する自己振動の防止と相まって、キャラクターの少ない、アナログ・ディスクが持つ微妙な雰囲気を余すところなく再現します。

■小音量時の聴感バランスを自然に保つ『コンベンセーター』

小音量では特に低音域の量感が不足し、不自然なバランスになります。この不自然感を補正するための『コンベンセーター』を装備。スイッチで 2 種類の特性を選ぶことができ、ボリュームの位置によって自動的に補正の度合いを調整します。

各部の動作説明

1

POWER — 電源スイッチ

押し込んだ状態で電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまでの約2.5秒間は、ミュート回路が作動しますので出力はありません。ミュート回路が解除されますと、パネル中央(ガラス窓の中)、ACCUPHASEの文字の下に赤い線が点灯します。また、サブパネル内のプッシュ・スイッチ類も、それぞれが作動状態にある時は、スイッチの上にあるLED(発光ダイオード)とパネル中央、各種ファンクション表示のLEDが同時に点灯します。

2

PHONES — ヘッドホン出力ジャック

ステレオヘッドホンで聴くときに、この出力ジャックにヘッドホンのプラグを差し込んでください。インピーダンスが4~100Ωのヘッドホンをご使用ください。プラグを差し込んでも本機の3系統の出力信号は切れません。したがって、ヘッドホンだけで聴くときは、⑦ OUTPUTS 切替スイッチで出力を切るか、パワーアンプで出力を切るようにしてください。

3

MODE — モード切替スイッチ

ステレオとモノフォニックの切り替えスイッチで、押して“LED点灯”で“MONO”つまりモノフォニックになり、左右チャンネルの信号がミックスされますので、両方のスピーカーへ同じ信号が入力され、スピーカーの中央で聴くと音像はセンターに定位します。再びスイッチを押して“LED消灯”で通常のステレオ再生状態です。

4

SUBSONIC FILTER — サブソニック・フィルター

サブソニック・フィルターは可聴帯域外の超低域10Hz以下を18dB/octという急峻な特性でカットし、超低域ノイズが可聴帯域内へおおよぼ悪影響を取り除きます。レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動によりウーファーがゆれたりするとき大変有効です。押して“ON”にすると、スイッチの上およびパネル中央の窓にLEDが点灯します。

5

TAPE COPY — テープコピー・スイッチ

テープレコーダーを2台使ってテープのコピーをするときにこのスイッチを使います。リアパネル⑬のTAPE-1に接続したテープレコーダーをマスターにしてTAPE-2のレコーダーでコピーする場合は“1→2”のスイッチを押します。TAPE-2からTAPE-1へのコピーは逆で“2→1”を押します。

テープレコーダー相互間でコピーをするときは⑩ TAPE RECORDER スイッチがREC OFF ポジションであってもかまいません。

コピーをしているときに⑩のTAPE RECORDER スイッチが“REC OFF”または“SOURCE/REC ON”にあれば、他のプログラムソースを聴きながら全く独立してコピーを続行することができます。

また、“1→2”でコピーをしているときに⑩テープレコーダー・スイッチを“TAPE-1”にすれば、TAPE-1の再生状態の確認、“TAPE-2”にすればコピーされたテープをモニターしながらコピーができます。TAPE-2からTAPE-1へのコピーも同じ要領です。“1→2”と“2→1”ポジションを押すとスイッチの上にあるLEDが点灯します。

6

COMPENSATOR — 聴感補正スイッチ

小音量で聴く場合の聴感上のエネルギー・バランスのくずれを補正するものです。

人の聴感特性はボリュームを下げたときに、その音量により低音感が不足してきたり、低音、高音共に不足して聴こえてきます。この不足分の量感を補うためにこのスイッチが大変有効です。“1”では低音だけを100Hzで+3dB，“2”では100Hzで低音を+8dB、高音域を20kHzで+6dB増強します。それぞれのスイッチは押してONで、LEDが点灯します。サブパネルを閉じていても、パネル中央、窓の中にもONの表示が出ます。

7

OUTPUTS — 出力ON/OFFスイッチ

このスイッチを“OFF”にすると、本機の3系統の出力信号が切れます。“1&2”、“1”および“2”の位置では、リアパネル⑮のOUTPUT-1およびOUTPUT-2の出力をそれぞれの出力端子から出したり、同時にしたりします。

リアパネルのBALANCED OUTPUTの出力は、このスイッチをOFFにしない限り常時出ています。OFFの状態でもパネル中央、窓にLEDが点灯します。

8

BALANCE —— バランス調整

右へまわすと左側の音が小さくなり、左へまわすと右側の音が小さくなります。ステレオ再生時の左右チャンネルの音量バランス調整に使用します。目盛は dB 値を表わし、正確な調整が可能です。

9

INPUT SELECTOR —— 入力セレクター**CD** —— コンパクトディスク・セレクター

リアパネル⑭の CD 入力端子へ接続した CD プレーヤーの出力を選択するスイッチです。

TUNER, CD, および LINE-1~LINE-4 の各ポジションは、定格出力が 126mV 以上ある機器を接続する限り、セレクター・ポジションに関係なく、どのポジションを使っても同じ働きをします。

TUNER —— チューナー・セレクター

CD 入力と同じように、ライン・レベルの出力電圧を持つ機器は何んでも接続可能です。

LINE-1~LINE-4 —— ライン入力セレクター

リアパネル⑯の各ライン入力端子へ接続した、チューナーや CD プレーヤー、映像機器の音声出力等をそれぞれのポジションで選択します。

CD (BALANCED) —— CD (バランス入力時) プレーヤー・セレクター

リアパネルの CD INPUT (BALANCED) 入力端子へ接続した CD プレーヤーのみならず、ライン・レベルの出力を持つ機器を選択します。

AD —— アナログ・ディスク・セレクター

アナログ・プレーヤーつまり、普通のレコード・プレーヤーは、リアパネル⑬に接続し、それをこのポジションで選択します。本機は MC (ムービングコイル=低出力型) カートリッジ用のヘッドアンプは内蔵されていません。MC カートリッジを接続するときは、ヘッドアンプあるいは、昇圧トランスを併用してください。

10

TAPE RECORDER —— テープモニター/録音出力 ON/OFF スイッチ

このスイッチが“REC OFF”および“SOURCE/REC ON”の状態にあるときは、TAPE PLAY 端子以外の入力端子からの信号を再生することができます。つまり、⑨の入力セレクターで選択するプログラムソースを再生できます。したがって、テープ再生をしないときは、必ずこのスイッチを“REC OFF”または“SOURCE/REC ON”の状態にしておいてください。パネル中央、窓の中の LED は“REC OFF”のときは点灯しません。

テープ再生をするときはリアパネル⑰の“TAPE-1”“TAPE-2”に接続したテープレコーダーをこのスイッチで選択してお聴きください。“REC OFF”の状態では、リアパネル⑰テープレコーダー接続端子のレコーディング出力“REC”の信号は出力されません。テープレコーダーを使用しないときはこの位置にしておいてください。“REC OFF”以外のポジションは、常に出力信号が出ています。

レコーディングをしているときは、“SOURCE/REC ON”でプログラムソースのチェック、“TAPE-1”または“TAPE-2”へ切り替えると、録音しながら、そのとき録音している状況をモニターすることができます(3ヘッド・テープレコーダーの場合)。TAPE COPY スイッチを使ってテープレコーダー相互間で録音・再生をするときは“REC OFF”ポジションが押されていてはかまいません。

なお、レコーディングをするときに、③の MODE スイッチが“MONO”状態ですとレコーディング出力信号もモノフォニックになってしまいますので注意してください。

11 ATTENUATOR — アッテネーター

C-270 の出力レベルを瞬時に減衰させることができます。“-20dB”より“-30dB”の方が減衰度が大きくなります。“∞”で出力がなくなります。ボリュームの位置を一定にして、プログラムソースを取り替えながら聴くとき、また瞬時にレベルを下げるときに有効です。作動状態でLEDが点灯します。

12 VOLUME — ボリューム

右へまわすと音量が増大します。レコードをかけたり、プログラムソースを切り替えたり、電源スイッチを切るときなどは、ボリュームを下げることを習慣づけましょう。

13 AD — アナログ・ディスク入力端子

この入力端子へはレコード・プレーヤーの出力コードを接続してください。本機は、MCカートリッジ(ムービングコイル型=低出力)のためのヘッドアンプ回路がありませんので、MCカートリッジをご使用のときは、ここへ入力する前に、ヘッドアンプあるいは昇圧トランスでカートリッジの出力電圧を増幅した後で入力してください。MM(ムービングマグネット=高出力型)カートリッジはダイレクトに入力できます。

14 CD — コンパクト・ディスク入力端子

CDプレーヤーの出力コードを接続してください。この入力端子から右へ、LINE-4の端子までは定格出力が126mV以上の機器を接続する限り、どこへ入力しても同じ動きをします。入力したポジションを入力セレクターで選択してください。

15 TUNER — チューナー入力端子

チューナーの出力コードを接続してください。入力セレクターでプログラムソースを切り替えたときに、音量の差が大きいと不快なものです。接続が終了したら各機器のレベルコントロールで出力レベルを合わせておくと使い易くなります。

16 LINE — 1 ~ 4 — ライン入力端子

CDプレーヤー、チューナー、テープレコーダーその他、映像機器の音声出力等を接続することができます。定格入力(定格出力に要する入力電圧)は126mVです。

17 TAPE — 1 / TAPE — 2
PLAY/REC — テープレコーダー再生/録音端子

TAPE-1, TAPE-2それぞれにテープレコーダーを接続することができます。“PLAY”には、テープレコーダーの“LINE OUT”からの出力コードを、“REC”には“LINE IN”からのコードを接続します。

REC端子の出力信号は、本機のボリュームやコンベンセーターの影響を受けませんが、MODEスイッチが“MONO”になっているときはこの出力もモノフォニック状態になります。録音時にはご注意ください。

18 OUTPUTS (UNBALANCED) — 出力端子

2系統の出力は、出力インピーダンスが1Ωで、一般の機器と同じ、不平衡接続になっています。

通常はこの1系統を使って出力を取り出してパワーアンプへ導きます。本機には高性能オーディオ・コードが付属されています。付属のコードをご使用になるときは、左右チャンネルのコードを軽く撚り合わせるか、近接させてテープ等で数ヶ所を固定して、同じ経路でパワーアンプへ入力されるようにしてください。

19 SWITCHED — 電源スイッチ連動コンセント

本機と接続する機器の電源をこのコンセントから取りますと、電源スイッチでON/OFFを一斉に行なうことができます。接続する機器の消費電力の合計が700Wを越えないように注意してください。

20 UNSWITCHED — 電源スイッチに連動しないコンセント

電源コードを室内の AC コンセントに接続すると、本機の電源スイッチの ON/OFF に関係なく、他の機器へ電源を供給することができます。消費電力の合計が 200W を越えないように注意してください。

21 CD INPUT (BALANCED) — バランス入力コネクタ (XLR-3-31 相当型)

伝送途中の外來雑音によって誘発された不要ノイズを入力回路でキャンセルし、音質の劣化を防止するバランス伝送はプロユースの機器の信号授受に広く使われている方式です。

このキャノン・コネクタは、入力インピーダンスが 40k Ω のバランス型になっています。CD プレーヤーと限ることなく、定格出力が 126mV 以上のバランス出力を持つ機器を接続することができます。ピン接続は、①：グランド、②：コールド、③：ホットで、適合コネクタは、キャノン・コネクタの XLR-3-12C 相当品です。

22 OUTPUT (BALANCED) — バランス出力コネクタ (XLR-3-32 相当型)

このキャノンコネクタ出力は、出力インピーダンス 50 Ω のバランス接続になっています。入力インピーダンスが 600 Ω 以上のパワーアンプ、その他の機器を接続することができます。ピン接続は、①：グランド、②：コールド、③：ホットで、適合コネクタは、キャノン・コネクタの XLR-3-11C 相当品です。

なお、キャノン・コネクタを使用した入力端子でも、アンバランス型になっているものがあります。バランス入力になっていない場合は本機の出力回路が故障する原因になります。アキュフェーズ・パワーアンプでは M-100、M-60、P-400 がアンバランス型の入力です。これらの機種と C-270 を組み合わせるときは、弊社の品質保証課、またはお求めの専門店へご相談くださいますようお願いいたします。

23 AC 電源コード

■ AC 電源の極性について

室内のコンセントは大地に対して極性を持っています。アンプの AC プラグにもこのような極性があり、室内の AC コンセントとアンプの極性を合わせた方が、音質上良い結果が得られる場合があります。

C-270 は、電源コード・プラグの片側に「W」の刻印が打たれています。この W 側が接地側「W 極」になっていますので、室内コンセントの極性がわかっている場合は、互いに合うように接続してください。なお、この極性は合わせなくても実用上問題になることはありません。

室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)が「W 極」ですが、工事をした時期、工事会社によって守られていない場合も多いので、不明のときはチェッカーで確認をする必要があります。

本機の SWITCHED/UNSWITCHED AC コンセントも向かって左側が「W 極」になっています。

■ AC 電源電圧の変更とヒューズについて

C-270 は使用できる電源電圧を 100V、117V、220V 及び 240V の 4 段階に切り替えられます。C-270 の底板側、電源トランスの下にあるジャンクション・ターミナルで接続変更をする必要があります。また電源 1 次側のヒューズも、ジャンクション・ターミナルの近くについていますが、電源電圧の変更やヒューズが切れて電源が入らなくなったときは、弊社の品質保証課、またはお求めの専門店へご連絡くださいますようお願いいたします。

ご使用方法

■コンパクト・ディスク (CD) をお楽しみになる場合

CD プレーヤーの出力コードを L (左), R (右) 共に正しく、リアパネル⑭の CD 入力端子に接続してください。CD プレーヤーを2台以上お持ちのときは、左端の AD (アナログ・ディスク) 以外、LINE-4 までどこへ入力しても同じ働きをします。また、CD プレーヤーにバランス出力が装備されている場合は、伝送途中での雑音妨害に強みを発揮する、CD INPUT (BALANCED) 端子をご使用になることをお薦めいたします。接続終了後は、次の手順で操作をしてください。

- ① 本機とパワーアンプの接続を確認し、VOLUME ⑫を下げて、電源スイッチを“ON”にしてください。
- ② 入力セレクター⑨を“CD”(または、入力したポジション)に合わせてください。
- ③ TAPE RECORDER スイッチ⑩が“SOURCE/REC ON”または“REC OFF”その上⑪の ATTENUATOR スイッチが“OFF”、⑦ OUTPUTS スイッチが“1&2”になっていることを確認してください。
- ④ CD プレーヤーを再生状態にして、“VOLUME”を上げて行きますと、演奏が聴こえてきます。ボリュームを上げ下げして調子を見てください。CD プレーヤーの出力レベルも必要に応じて調整してください。
- ⑤ MODE スイッチ③を押して“MONO”の状態にして、音像が中央に定位することを確認したり、⑥ COMPENSATOR スイッチの効き具合を試してください。

■チューナーで放送を聴く場合

チューナーの出力コードが L (左), R (右) 共に正しく TUNER 端子⑮に接続されていることを確認してください。CD プレーヤーのところで述べた通り、必ずしも“TUNER”端子へ入力する必要はありません。

CD 再生と同じ要領で TAPE RECORDER スイッチや ATTENUATOR スイッチなどの確認をして⑨入力セレクターを合わせてください。あとはボリュームを上げれば聴こえてきます。

プログラムソース間の再生レベルを合わせておくと、入力セレクターを切り替えたときに不快感がありません。それぞれの機器の出力レベルコントロールで調整しておくことをお薦めいたします。

■アナログ・ディスク (AD) をお楽しみになる場合

レコード・プレーヤーの出力コードが L (左), R (右) 共に正しくリアパネル左端の AD 端子へ接続されていることを確認してください。本機は MC カートリッジのためのヘッドアンプを内蔵していませんから、レコード・プレーヤーに装着しているカートリッジが MC (ムービングコイル) 型のときは、本機へ入力する前に、出力電圧をアップさせておく必要があります。この場合は、ヘッドアンプや昇圧トランスの出

力コードを AD 端子⑬へ接続します。

すべての接続を確認したら、CD プレーヤー、チューナー等と同じ要領で、各スイッチ類を正しくセットし、カートリッジをレコード面におろし、ボリュームを上げて行きますと演奏が聴こえてきます。

■テープレコーダーで録音、再生をする場合

リアパネル⑰の TAPE-1 (2台接続するときは TAPE-2 へも) の“REC”端子とテープレコーダーの“LINE IN”端子、“PLAY”と“LINE OUT”端子が左右チャンネル共に正しく接続されていることを確認してください。

1. 再生(プレーバック)

テープレコーダーをテープ再生状態にして、フロントパネルの⑩ TAPE RECORDER スイッチで“TAPE-1”または“TAPE-2”を選択してください。入力セレクターがどの位置にあってもテープを聴くことができます。

TAPE RECORDER スイッチを“SOURCE/REC ON”や“REC OFF”にすれば、そのとき入力セレクターで選択しているプログラムソースに戻ります。

2. 録音(レコーディング)

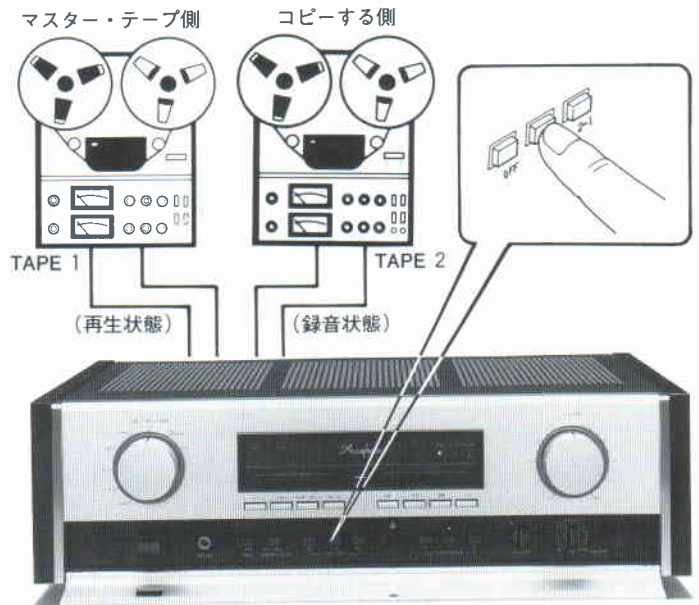
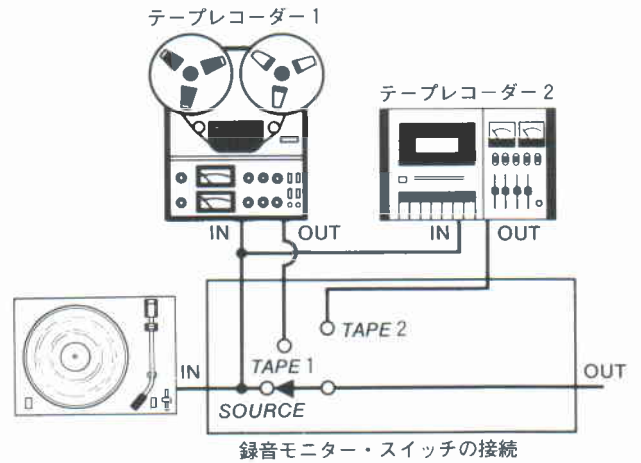
レコーディングをする場合は、次の手順で行なってください。

- ① プログラムソースを選び、スピーカーから音を出して確認しておいてください。
- ② TAPE RECORDER スイッチ⑩を“SOURCE/REC ON”にして録音出力を“ON 状態”にしてください。
- ③ テープレコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。
- ④ 本機のボリュームやコンペンセーターなどは、録音される音には関係しませんので音量を下げて静かに録音することもできます。録音レベルはテープレコーダー側で調整してください。
- ⑤ 録音中に TAPE RECORDER スイッチを“SOURCE/REC ON”にすればプログラムソースのチェック、“TAPE-1”(または TAPE-2)へ切り替えると録音されたテープのモニターが録音をしながらできます(ただし、3ヘッド・テープレコーダーの場合のみ)。
- ⑥ 2台のテープレコーダーで同時録音も可能です。

3. コピーのしかた

本機はテープコピー・スイッチを装備していますので、ディスクや放送を聴きながら、まったく独立してテープのコピーができます。テープのコピーを作るときは次の手順で行なってください。

- ① TAPE-1 をマスターとして TAPE-2 側でコピーする場合は、TAPE COPY スイッチ⑤の“1→2”を押します。逆の場合は、“2→1”を押します。
- ② マスター側のテープレコーダーを再生状態、コピー側のテープレコーダーを録音状態にすればコピーができます。逆の場合は“2→1”を押します。
- ③ TAPE-1 → TAPE-2 でコピーしている場合は、TAPE RECORDER スイッチを“TAPE-1”にしますとマスターテープの音が、“TAPE-2”にしますとコピーされたテープの音が聴けます。TAPE-2 → TAPE-1 のときは逆になります。
- ④ コピーが進行しているときでも、TAPE RECORDER スイッチが“SOURCE/REC ON”または“REC OFF”にあるときは、コピーとは無関係にディスクやチューナーを聴くことができます。



TAPE 1 から TAPE 2 へコピーする場合

ご注意

■発熱と使用上の注意

本機各ユニットアンプ回路は、全段がA級ドライブになっていますので発熱があり、通電時間が長くなった場合、ケース上面を触ると熱く感じますが、性能や耐久性には全く支障ありません。回路部品、機構部品や構造などへの、熱に対する配慮は十分に行なっていますが、狭くて通風の悪い場所への設置は避けてください。また、直射日光の当たる所や、暖房器具の近くへの設置も避けるようにしてください。

■パワーアンプや他の機器と直接かさねて設置しないようにしてください

パワーアンプや他の機器と直接重ねて設置しますと、それらの機器の漏洩磁束による電磁誘導によってハム(ブーンという音)がスピーカーから聴こえることがありますので、直接重ねないようにしてください。機器間の距離は10cm以上離すようにし、ラックなどに入れてご使用のときは、パワーアンプからの熱や放熱に対する配慮をしてください。

■入出力コードを抜き差しする場合は、必ず電源を切ってから行ってください

RCAタイプのピンプラグ(通常のオーディオ機器に使用されているもの)を端子から抜き差しするときは、プラス側、マイナス側ともに同時に入ったり切れたりせず、プラス側が先に入ったり、残ったりする構造のため、一瞬マイナス側が浮いた状態になって大きなショックノイズを発生し、スピーカーを破損する原因になります。

各機器間の入出力コードを抜き差しする場合は、必ず電源をOFFにしてから行ってください。

■CD バランス入力端子(キャノン・コネクター)と CD アンバランス入力端子(ピンジャック)へ同時に入力しないでください

CDをはじめ、ラインレベルの出力電圧を持つ1台の機器からの出力信号を、CD バランス入力端子と CD アンバランス入力端子へ同時に入力しないようにしてください。

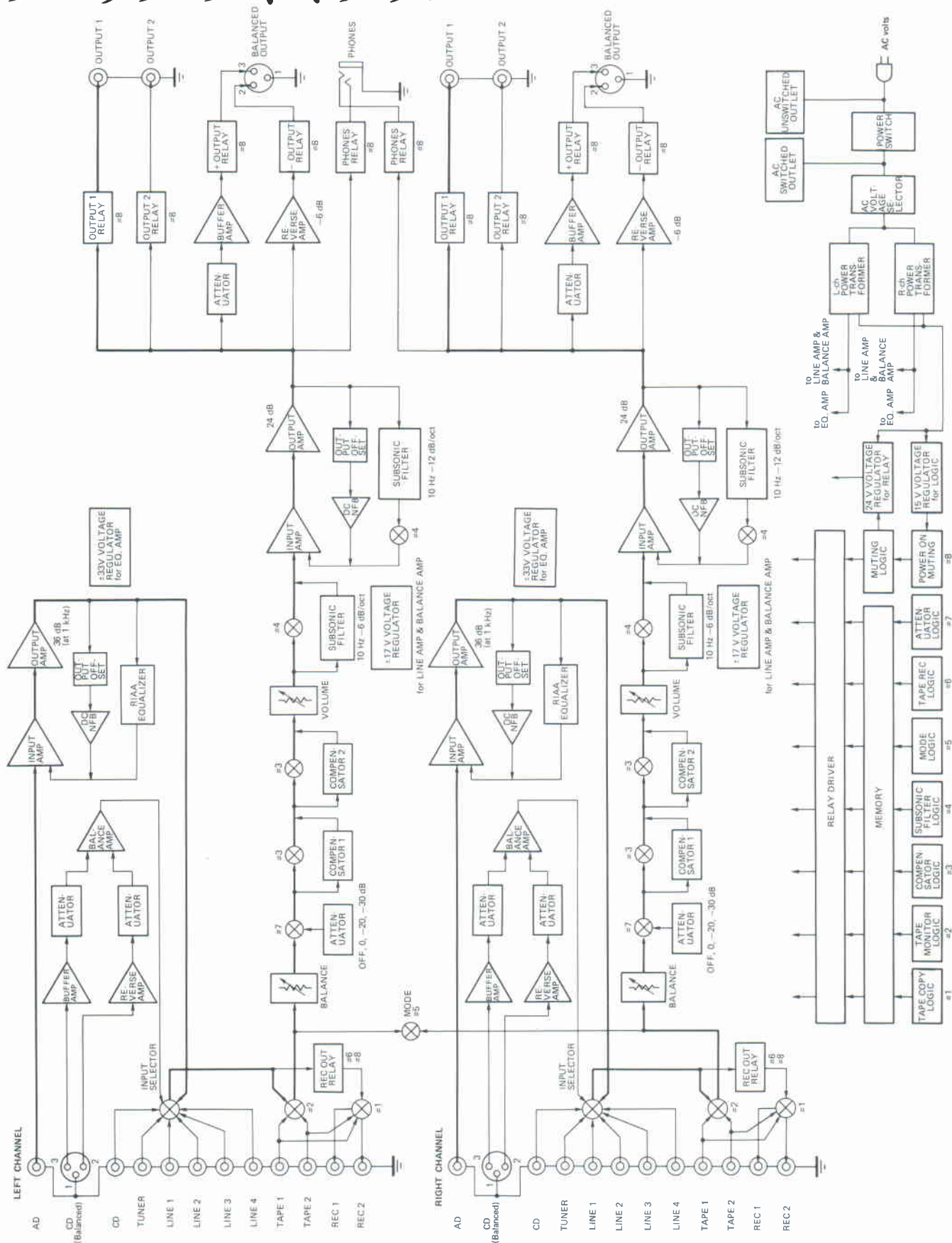
入力セレクターで両端子の信号を切り替えています。接続する機器の出力回路の状態により、アースラインが不都合なループを形成し、不要なトラブルの原因になりますのでおやめください。

■パーシモン・サイドボードについて

本機はパーシモンの美しい木目を活かしたサイドボードがあります。ボードの汚れを取るときは、硬くしぼった柔らかい布で丁寧に水拭きをしてください。

木工製品用の各種ワックスが市販されていますが、使用後に悪い結果を招くことがありますのでご注意ください。

ブロック・ダイアグラム



保証特性

保証特性は EIA 測定法 RS-490 に準ずる

AD : アナログ・ディスク

周波数特性

TUNER, CD, LINE, TAPE PLAY INPUT :

1.0~500,000Hz +0, -3.0dB

20~20,000Hz +0, -0.2dB

AD INPUT :

20~20,000Hz +0, -0.2dB

全高調波ひずみ率

0.005% (すべての入力端子にて)

入力感度・入力インピーダンス

入力端子	入力感度		入力インピーダンス
	定格出力時	EIA 出力0.5V時	
AD	2.0mV	0.5mV	47k Ω
TUNER, CD, LINE, TAPE PLAY	126mV	31.5mV	20k Ω
CD BALANCED	126mV	31.5mV	40k Ω (20k Ω /20k Ω)

定格出力・出力インピーダンス

OUTPUT (BALANCED) : 2.0V 50 Ω (25 Ω / 25 Ω) / キャンオン・コネクター

OUTPUT (UNBALANCED) : 2.0V 1 Ω / フォノジャック

TAPE REC : 126mV 200 Ω / AD 時

ヘッドホーン端子

適合インピーダンス : 4~100 Ω

S/N・入力換算雑音

入力端子	入力ショート・A-補正		EIA S/N
	定格入力時 S/N	入力換算雑音	
AD	85dB	-140dBV	85dB
TUNER, CD, LINE, TAPE PLAY	100dB	-118dBV	92dB
CD BALANCED	100dB	-118dBV	92dB

最大出力レベル(ひずみ率0.005% 20~20,000Hz)

OUTPUT (BALANCED) : 10.0V

OUTPUT (UNBALANCED) : 10.0V

TAPE REC : 19.0V / AD 時

最大入力電圧(1kHz ひずみ率0.005%)

AD : 300mV

CD (BALANCED) : 10.0V

最小負荷インピーダンス

OUTPUT (BALANCED) : 600 Ω (300 Ω / 300 Ω)

OUTPUT (UNBALANCED) : 1k Ω

TAPE REC : 10k Ω

ゲイン

TUNER, CD, LINE, TAPE PLAY

→ OUTPUT : 24dB

TUNER, CD, LINE, TAPE PLAY

→ REC OUTPUT : 0dB

AD → OUTPUT : 60dB

AD → REC OUTPUT : 36dB

ラウドネス・コンペンセーター(音量調整 -30dB)

1 : +3dB (100Hz)

2 : +8dB (100Hz) +6dB (20kHz)

サブソニック・フィルタ

10Hz -18dB/oct

アッテネーター

-20dB -30dB $-\infty$

使用半導体

108 Tr 15 FET 27 IC 106 Di

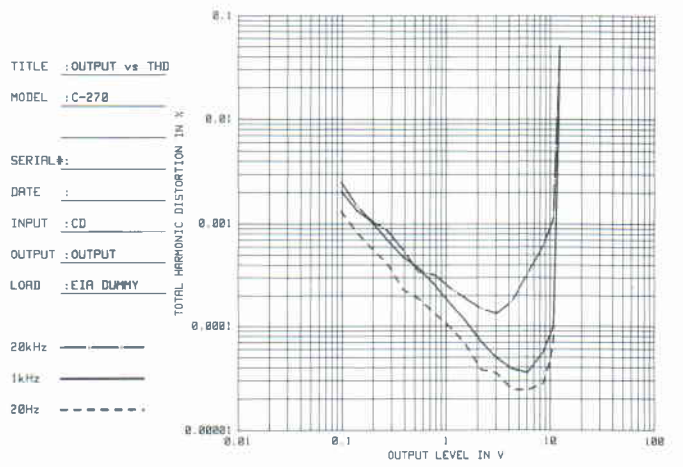
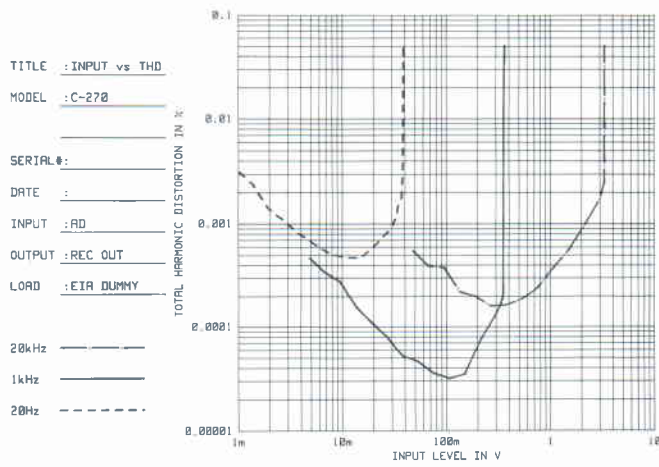
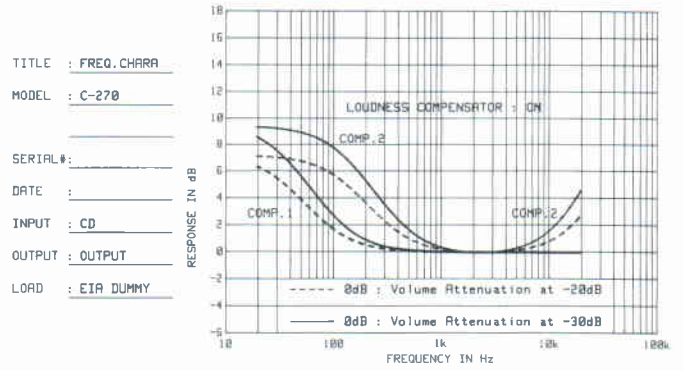
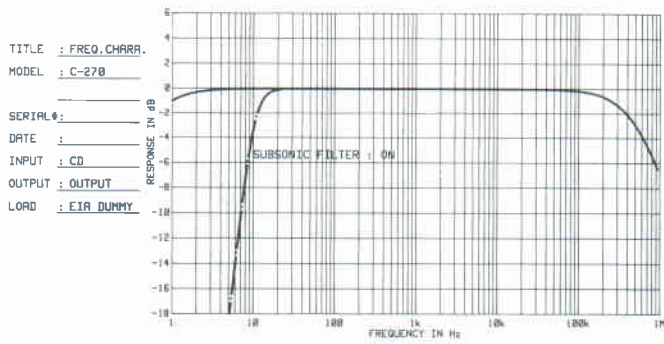
電源・消費電力

100V, 117V, 220V, 240V 50/60Hz 40W

寸法・重量

幅475mm × 高さ(脚含む)148mm × 奥行373mm 15.6kg

特性グラフ



Accuphase

ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市緑区新石川2-14-10

〒227 TEL(045)901-2771(代表)